

令和7年度第2回図書館協議会会議録

【日時】 令和7年10月25日（土）午前10時00分～正午

【場所】 キックス1階 集会室

【会議次第】

1. 開会
2. 図書館年報について
3. 図書館利用者アンケート結果について
4. 次期子ども読書活動推進計画の策定について②
5. 「図書館事業評価に係るお知らせ便」について
6. 閉会

【出席者】

（委員）尾谷雅彦会長、佐藤敏江副会長、

出石照美委員、今井佳代子委員、岩崎彩委員、河浦和哉委員、

早川和代委員、三根ゆみ委員

（事務局）尾西教育推進部長、山本社会教育第2課長兼図書館長、

森田主幹（司会）、青木主幹兼図書館サービスグループ長、

福井主査（記録）

【傍聴者】 0人

【会議資料】

次第2関係 令和7年版 河内長野市立図書館年報

次第3関係 令和7年度図書館運営についてのアンケート調査結果報告

次第4関係
 { ①河内長野市子ども読書活動推進計画（令和8年改定版）の概要
 { ②河内長野市子ども読書活動推進計画（令和8年改定版）（素案）

次第5関係
 { 図書館事業評価に係るお知らせ便（令和7年10月）
 { 講座等の案内チラシ（当日配付）

1. 開会

（事務局）

事務局から出席委員が8名であり、河内長野市図書館協議会規則第3条第2項の規定により本会議が成立したとの報告。引き続き委員および事務局職員の紹介。

2. 図書館年報について

（会長）

それでは、次第2の「図書館年報について」事務局から説明をお願いいたします。

(事務局から説明)

…資料「令和7年版 河内長野市立図書館年報」に基づき説明

(会長)

ありがとうございました。内容がたくさんありますて、皆さま事前に資料を見ていただいていたと思うのですが、説明内容につきましてご質問やご意見はございませんか。

(委員)

少しお礼と質問をさせてください。第1回目の図書館協議会と同じ日に福祉センター錦渓苑で歴史講座を開催しまして、図書館の職員さんに講師に来ていただきました。「狩りをするお殿様」という講座で、福祉センターということで80歳前後の高齢者の方が多く合計20名が参加されたのですが、大変好評で続けてまたやってほしいというような声がありました。私は当日この会議に出ていましたので聞けなかったのですが、先ほど説明のあったY o u T u b e歴史講座で後日見て、昔ながらの地名も出てきたりして大変面白く楽しませてもらいました。ありがとうございます。その講師に来ていただいた方は認証アーキビストを取得されているとのことですが、それはどういうものなのでしょうか。

(事務局)

手元に資料がなくてすぐにお答えできず申し訳ないのですが、公文書の管理などをしている者に対して認証される資格です。どのような論文を書いてきたかなど様々な審査を経て認証されるのですが、今回講師で派遣した職員はその実績などが認められて登録されました。ただ一定期間が経つと更新が必要で、またその間の実績を報告しなければならないというものになります。

(委員)

本図書館では1名おられるんですね。

(事務局)

はい。

(副会長)

公共図書館とか大学図書館で働いているのは、全員ではないのですが図書館司書という資格を持っている方が多いんですね。博物館だと学芸員の資格を持っています。公文書館とか文書館とか古い資料、文字の資料だけではなく絵も入っていますが、それをを集めているところで働いている人達の資格がアーキビストというんです。だからその中でも、国に認定されているということですね。この図書館には市史関係など

の古い資料があり、そういう資料が扱える人ということです。

(委員)

ありがとうございます。

(会長)

よろしいですか。他にはいかがですか。

(副会長)

資料 18 ページの公民館図書室の蔵書冊数ですが、図書室によって一般書が多いところと児童書の方が多いところがありますよね。これは公民館図書室の人が選書していると思うのですが、やはり子どもの利用の実態などを反映しているのでしょうか。それから返却ポストについて 38 ページに統計が載っているのですが、三日市町駅前が5年の間に3,000 冊ぐらい減っていて、千代田駅前の方が増えてきているんですね。電車の影響か人口の関係なのか、何か気がついていることがおありでしたら教えてください。

(事務局)

18 ページの公民館図書室の蔵書については、各公民館図書室で選んでいるのではなくて図書館で選書をして、各公民館図書室に送っています。公民館図書室の職員からもこういう本が欲しいというような意見も聞きましたし、それに合わせて購入しているところです。ただやはり本を置くスペースが限られているため、あまり利用がない本は図書館にまた送ってきてもらって書庫に入れたりしていますので、その関係で一般書と児童書の冊数の差が出てきているのかなと思われます。児童書を多く所蔵する川上公民館図書室は施設の横に保育園があり、児童書もよく利用されているのではないかと推察されます。

(副会長)

蔵書が貸出冊数にも影響してくるかなとちょっと思いました。

(事務局)

三日市町駅前については、美加の台駅構内の返却ポストができたことで、分散してきたものと思われます。千代田駅はバスの発着も多いので利用が増えているのかなと思います。

(副会長)

たぶん仕事に行く前に重い本を返すということで通勤などが関係しているのかなと思いました。

(会長)

それでは今日ご欠席の委員から書面で質問が届いておりまして、私の方で代読させていただきます。まず図書館年報についてのご感想です。「市人口の減少、少子化など図書館を取り巻く状況、また資料購入予算の減少など図書館運営の困難な中で一定の利用実績をあげているのは、資料提供に対する図書館職員の努力、児童サービスを始めとした各種行事などの他、PR活動などにより市民への図書館活動の理解を進めている活動の成果だと思います」という全体の感想をいただいています。質問は2件ございます。1件目が「22ページ 「11.個人貸出」の表の中で自動車文庫の「計」の欄の3月の数字が「719」となっています。他の月の約半分となっていますが、出動日数の減によるものでしょうか」ということです。それから2件目が「35ページ 「(9)電子書籍利用数」の6年度の数値が他の年度より大幅に増加しております。この理由は何でしょうか」ということで、これら2点のご質問についてお願いいたします。

(事務局)

まず22ページの個人貸出冊数と、自動車文庫の利用の減少なのですが、先ほども申し上げましたとおり3月は蔵書点検を実施しております、自動車文庫もそれに合わせまして休止しております。休止期間は2週間となり23ヶ所の全ステーションで巡回を1回休止しているため、通常の半分程度になります。通常2週間に1回の巡回が3月は4週間に1回になりますので、他の月と比べてほぼ半減しているということで考えております。あと35ページの電子書籍の利用状況については、先ほども少しご説明しましたが、令和6年度から市立小学校4年生から中学校3年生と、希望のあった私立の中学校、高等学校等に電子書籍の利用者IDの配付を開始しました。また朝読で活用できるような、1つのコンテンツを同時に何人でも読むことができる「読み放題パック」も導入しまして、利用が伸びております。

(会長)

ありがとうございます。他にご質問がありましたらお願いします。なければ次第2についてはこれで終わらせていただきます。

3. 図書館利用者アンケートの結果について

(会長)

それでは次に次第3について事務局から説明をお願いします。

(事務局から説明)

…資料「令和7年度図書館運営についてのアンケート調査結果報告」に基づき説明

(会長)

ありがとうございます。色々とご意見をいただいているようですね。今の図書館利用者アンケート結果について、ご意見やご感想があればお願ひします。先ほどの本日欠席の委員からはまたご感想をいただいております。「このアンケートの結果を読ませていただき、市民の図書館サービスに対する感想、意見等は例年と変わらず良好なものと思いました。今後とも職員みんなで更なる図書館活動の展開を期待します」ということでした。

(副会長)

私も感想なんんですけど、図書館窓口とWebでのアンケートの回収件数に圧倒的な差がありますよね。その理由として、図書館に来ている人は何か感じているはずなんだけど、やっぱり落ち着いて回答したいというのがあるのかなと思いました。今日は本を借りに来ただけで次に予定もあるからアンケートに回答する時間がないけど、家だと落ち着いてできるというのがあったりするのかなと。あまり意見がなかったのかなとも思うんですが。広域利用で利用が多かった富田林市や千早赤阪村あたりから来た人がやっぱりこのアンケートでしっかりと答えてくれていますね。ここの図書館の利用において広域利用者の占める割合と、アンケートの回答者に占める割合が同じような傾向だったので、やっぱりここまで来て借りた人はしっかりと意見を言いたいという方なんだろうなというふうに感じました。意識が高いというか自分が使っているからこうなってほしいという要望があるのでしょうが、面白いなと思いました。

(会長)

ありがとうございます。今回はアンケートの中に次期子ども読書活動推進計画に関する設問も入っていました。では、次の次第4に進ませていただきます。

4. 次期子ども読書活動推進計画の策定について②

(事務局から説明)

…資料「①河内長野市子ども読書活動推進計画（令和8年改定版）の概要」「②河内長野市子ども読書活動推進計画（令和8年改定版）（素案）」に基づき説明

(会長)

ありがとうございます。事務局から説明がありましたが、先に本日欠席の委員から質問が5件届いていますので、先に読ませていただきます。1つが「第4次計画と比較して今回の令和8年度改定版の計画の特徴は何でしょうか」ということですが、いかがでしょうか。

(事務局)

第4次計画は、策定前に読書バリアフリー法の施行と、GIGAスクール構想によ

りＩＣＴを基盤とした先端技術等の効果的な活用が求められるという動きがありました。そのため、放課後等デイサービス等の福祉施設への資料提供や、障がいのある子どもや日本語以外を母語とする子どもなど多様な子どもに配慮すること、また電子書籍を含めたアクセシブルな書籍等の充実などを計画の中に明記する形で改定しました。今後も教育のデジタル化は進展していくと考えられますので、これまでの読書推進の取組みを継続しつつ、社会の動きや地域の実情に合わせた取組みを関係機関との連携のもと、進めていきたいと考えております。

(会長)

ありがとうございます。質問2としましては、「平成18年から策定されてきた推進計画は、第1次から第4次までそれぞれ5年間の計画として策定されてきましたが、今回は10年間の計画となっていますが、どうして10年間になったのでしょうか」ということですが、これは先ほどの説明にもあったとおり第6次総合計画に合わせてということですね。

(事務局)

はい、説明にあったとおり、現在策定作業中の本市の第6次総合計画が令和8年度から10年間となりますので、それに合わせて10年間とし、計画期間中において必要に応じて修正ができるものとしたいと考えております。

(会長)

わかりました。続いて質問3なんですが、「素案の4ページ「②子どもと本をつなぐ人づくり 読書ボランティアの育成」で講座等を開設してボランティアの育成に努められましたが、この間ボランティアは増えましたでしょうか」ということですが、いかがですか。

(事務局)

本日の当日配布資料として図書館のボランティア講座に関する黄色いチラシをお渡ししていますが、このように継続してボランティア講座を行っております。その講座を受講していただいた方が、その後地域のボランティアグループに所属し経験を積みながら、学校や認定こども園などの活動に携わることにつながっており、一定の効果は上がっております。しかしながら、経験者の方が高齢等により活動を辞めされることも増えており、総数としてボランティア人口の大きな増加があったとは言えない状況です。

(会長)

引き続き質問4ですが、「素案の11ページ「(3)学校等における子どもの読書活動の推進」の項で、「オンラインを活用したB1などの取組も始まりました。」とあり

ますが、「B1」について説明してください」とのことです。

(事務局)

この素案にはまだ用語説明がついていないので、他にもわかりにくい部分があったかもしれません。最終的には用語説明を入れるなど、理解していただけるように対処いたします。ご質問の「B1」とは「ベストブックバトル」という本市の市立小中学校における読書推進の取組みです。小学校5年生と中学校2年生の児童生徒がお気に入りの本を持ち寄って紹介し合い、良かった本に投票します。5~6人のグループから始め、学級代表、学校代表と予選を進めます。最終的には複数校をオンラインで繋いで交流会を行います。お友達が本を紹介するのを聞いていて、読んでみたくなるというように子ども達の読書に繋がっていっているようで、学校での取組みとして効果が上がっているというふうに聞いております。

(会長)

続いて質問5「素案の11ページ 「(4) 図書館における子どもの読書活動の推進」で「来館していない子ども・保護者への読書啓発」と関連して、子ども向けの電子書籍のどれくらい所蔵(所有でしょうか)されていますか」ということですが、いかがですか。

(事務局)

令和7年3月末現在で542タイトルです。年報の方にも載せております。

(会長)

ありがとうございます。以上が欠席されている委員からのご質問でございました。皆さま何かご質問はいかがでしょうか。

(委員)

子どもの本については、子どもと本の連絡会としても常々色々と考えておりますが、先ほどの利用者アンケート結果の中で、読書離れをふせぎ、子ども達に読書の楽しさを伝える方法として10代の1位になったのが「学校や家で読書をする時間をしっかり作る」だったんですよね。それを見て、10代の子は自分が読みたい本を読む時間もないくらい忙しいのかしらと心が痛くなりました。そういう子ども達にとって、読書は自分の中でどのような位置づけにあるのかなと考えました。本を1冊も読まないという子でも教科書や参考書は読むじゃないですか。もちろんゲームをしたりする時間も子ども達には必要なんでしょうけど。でもそうではなくて紙の本を読む時間がないというのは、子どもが読書についてどのように捉えているのかについて、私達大人ももう1回考えなくてはいけないなと思いました。子ども達が読書したいと思うためには、本を読むことは面白いんだと感じてくれるのが基本なんだと思います。大人が

考えるように、本をたくさん読んだら賢くなるとか、社会的に色々なことを知ることができることではなくて、読書をすることは自分が面白くて楽しくて、自分の喜びになるんだと思えることが大事だと思います。だからまず私達がそういうところを大切にしていかないといけないなと思っています。そのためには今子ども達はどんなことが楽しいのか、どんな本を読みたいと思っているのかということを私達も知らないといけません。先ほどB1の話で、子どもがお互いにお気に入りの本を教え合うということが今すごく大事だと言っていたと思うのですが、利用者アンケートの中でもやはり友達とこの本が面白かったという話をするというのがありましたよね。そういう場所をもっとつくってあげたいなと私は思っています。例えば絵本は幼稚園ぐらいの子どものものだと大人が思っていたり、子ども自身ももう私は絵本を卒業しましたと考えている子もいると思うんです。でもお友達と一緒に読んだらこの絵本はこんなに面白かったねとか、大人でも心に刺さるよねみたいなことがやっぱりあるかと思うんですね。そういう話をどうやって子ども同士や親子でやっていくか、私達はおはなしのボランティアなので、おはなし会に来てくれた子どもとどうやっていくかということが大事なのかなあというふうには思っています。そういう場所をいっぱいつくりたいと思っています。

(会長)

ありがとうございます。もうお1人くらいどなたかご意見ご感想をお願いします。

(委員)

今おっしゃったとおりだと思います。私は前にも言いましたけど、図書館に来たら「大人だって楽しい絵本・児童文学」のコーナーの本を必ず借りて読んでいます。絵本の物語の裏側は読む人の年代によって感じ方が違うと思うんです。子どもはただ表側の物語を読みますが、大人は自身の経験によってこの言葉はこういう感じ、こういう思いを含めて言っているんだということまでわかって、本当に絵本は大人も子どももすごく楽しめる大事なものなんだなとつくづく思っています。だから最近「大人だって楽しい絵本・児童文学」のコーナーの本がすごく増えたのでとてもありがたいです。このコーナーの本はいつもどうやって選んでいるんだろうと思うぐらい、図書館の人は考えて選書してくれています。私は周りの人にいつもどんな本がいいかと聞かれるんです。そういうことは子どもも同じだと思うんです。だから、子ども同士で本についての話ができるような雰囲気をつくり、さらに親子でもそれができたらとてもいいと思うんです。結局のところ基本は家庭なんだろうなと私は思います。先日子どもの本をたくさん持ったお父さんが子ども連れて図書館にいらしてて、この子はすごく幸せだなあと思いました。この歳になって改めて小さい時の子どもと本とのつき合い方がどんなに大事かということを考えました。今の私でもこんなに楽しめるんですから。そのことをパソコンやスマホばかりをやっている子どもと親御さんにどう伝えたらいいのかといつも考えています。

(委員)

確かに図書館で会う子どもと親御さんはそういう関係なんだなあ、よかったです。それがもしかしたら中高生の不読率に繋がっているのかなという気もします。そういう環境にいる子ども達に対して、私はボランティアとして、図書館は図書館の本を扱う人として、学校は教員として、どういうふうに活動していくか、どうアプローチしていくかということはすごく考えなければいけない問題だと思います。問題が大きすぎて、どこから手をつけていけばいいのかわからない状態ではありますが、たぶん大人が考えていくべきところなのかなと思います。

(副会長)

スマホを持った子どもを昔より見る回数が増えました。2歳ぐらいの子が画面を操作しているんです。

(委員)

教育者として色々な地域の小中学校を見てきて、ここ2~3年ですごくデジタル化が進んだなと感じました。この9月の授業参観で行った学校ではもう低学年からキーボードがついているノートパソコンのようなものを使用していて、楽しそうにやっていました。タイピングも上手になるということでいい面もあります。私も先ほど委員がおっしゃったことと同じ意見です。しかし大人が子どもに絵本を全く読んであげていない家庭もあり、その場合はやはり時代に応じたものをうまく取り入れていかないといけないなと思っています。B1は参加対象が小5と中2に限定されていますが、普段の図書の時間でもブックバトルのようなものをして、自分のお気に入りの本の紹介を書かせるということも大事なのではないかなと思うんです。書くという作業は、低学年には難しくなってきており、色々な言葉を選んで文章にする能力というのが、本当に今の子ども達は低下しています。それは読書離れが影響している部分もあって、どういう接続詞を使うのかもわかっていない子どもに文章を作りなさいというと、ただ「面白かった」というように単語だけを並べるんです。だから読書感想文となるとすごく硬いので、本を読んでここが面白かったというところを簡単な言葉でメモしていくことから始めるのもいいんじゃないかなと思います。今はここに先生方がいらっしゃらないので小学校・中学校の情報がわからないのですが、参観に行ってみるとやはり子どもは、ほぼどの時代も変わっていない。でも周りの環境がどんどん変わってくるので、例えばスマホをすごく上手に使うことと、本を読んで面白いと感じるとか友達にお勧め本を教えてもらって読んでみたいなと思うのは、原点は一緒だと思うんです。だからその原点を大事にしつつ、今のデジタル化も利用しながらやっていくというのを、これから次の計画に踏まえていかれると思うんですが。市の公式LINEでアンケートがありましたよね。私は60代女性ぴったりなんです。回答を入力しま

したが、やっぱりそれも市のLINEに情報が流れてきた時に興味を持てばアクセスしますよね。同じように学校でそういうアンケートをデジタルでやってもらって子どもの声とか先生の声とかをもっと聞きたいなあと思いました。

(委員)

私は子どもを図書館に連れて来たことがほとんどないんです。うちの子は動き回る子で、「じっとして」「触らないで」「破らないで」と注意することになって連れて来られるわけがないよなあと思っていたので、今まで縁がなかったんです。支援学級にも通っている子なのですが、そういう子だからこそ科学館、博物館、動物園、水族館、もう私が全部覚えるぐらい連れて行っているんですけど、そこで見たものが図書館でももっと詳しく読むことができるんですね。私は子どもを図書館には連れて来にくかったので、図鑑を買って与えていたんですけど、そういう特性のある子も来やすいような取り組みをやっていたら保護者はすごく楽だったんだろうな、私も楽だったんだろうなという意見が1つあります。

(副会長)

最初に誰かが突破してくれれば、次の人が来やすいんですね。

(委員)

図書館の中はしーんとしていますよね。

(事務局)

しーんとしていないですよ。

(委員)

今はそうでもないですよ。

(委員)

そうなんですか。

(委員)

おはなし会でもいろいろな子がいますが、それでもみんなで一緒に聞こうねという感じになっています。

(委員)

親がちょっと静かにしなさいって思うだけなんですね。

(委員)

そうですね。保護者の方が子どもに静かにするように注意するんですよね。でも読み聞かせをしているほうはある程度は静かにしてほしいとは思うのですが、基本的にはそこに来ておはなしを聞いてくれて、保護者の方もこんな本があるんだなと思ってくれるのが私達には一番ありがたいことです。

(委員)

最近の図書館は静かじゃないんですね。図書館ではとにかく静かにしておかなくてはいけないというイメージがあったので、私にとっては子どもを連れて来ることはハードルが高かったのですが、今回会議で話を聞いていてこんなにたくさん的人が関わってやってくれているんだなとわかりました。

(委員)

以前はおはなし会も扉を全部閉めてやっていましたが、今はオープンにしているので、聞いているのがしんどくなったらちょっと外に出てもいいよというようになっています。

(委員)

高学年になって少しあはなし会をわきまえられるようになったので、一度連れて来てみようと思います。

(委員)

おはなし会でも小さい子が騒ぐと次からは参加できなくなると思う保護者もいるのですが、じつとといられなくなったらちょっとおはなしのへやから出て、また時間が経ったら戻ってきてねという気持ちがおはなしをする側としてはあります。

(副会長)

部屋として区切っていたり、コーナーとして区切っているのは、子どもだからということで一般の人にも配慮したことなんですね。

(委員)

私あまり図書館を利用したことがなく、先日利用者登録をいたしました。私は本を読むのはとても好きで、なぜ好きになったのかなと今考えていきました。別に親から本を読めと言われたこともありません。でも私は小学校の頃から図書館で本を借りまくって、その本を読んでその世界の中に入っていくというのがすごく楽しくて、色々な本をずっと読んでいました。私は働いていたこともあって図書館には来られなかつたのですが、家には本はいっぱいあるんです。子ども達にも絵本とかを夜に読み聞かせし、子どもには「お母さん、最後には絶対に寝るから、今日は2冊にしておいてあげる」と言われたりしていました。長男は「お母さんはすぐ寝るから僕が読んであげ

る」と言って下の子に読んだりもして、みんな本は好きなんだと思います。だから私は子ども達を図書館に連れて来られない代わりに、本が読みたいと言えば必ず買い与えていました。一番下の子は水滸伝が大好きで、色々な作家の水滸伝を買って持っています。どうしてそんなふうになったのかなというのが、自分もちょっとよくわからないんですけど。本を読むのが本当に楽しいと私は思っているので、それを今の子ども達にどう伝えたらいいのかなと思います。孫も私の本棚から絵本とかを選んで色々と読んでいて、それで気に入った本があるとお風呂で私と孫とが交互にその本の物語を言い合います。ストーリーは全然バラバラで、もとの話とは違うんですけど、お互いにお話をし合えることがとてもありがたいなあと思っています。私はこの会議に出席して、私が図書館に何ができるのかなと考えるようになりました。私は周りの色々な人に図書館のことは知らなかつたんだけど、今はこんな感じなのよ、だから子どもさんとか連れて行ってあげてねと言っています。私にできるのは、そういうことかなとか思って。私も孫とかを連れて来ようと思っていたんですけど、自分がちょっと入院していたこと也有って、前回の会議以降は図書館に来ることができませんでした。やっと今日来られたのでこれからまた図書館を利用していくうと思っています。本を読む楽しさ、ワクワクする気持ちを子ども達にどう伝えてあげたらいいのでしょうか。口コミとかですかね。

(委員)

今入院していて図書館には来ることができなかつたと言われましたが、以前から本は大好きだったのに、図書館に行きづらいと思われる理由は何なのでしょうか。時間がないなど色々と理由があるかと思うのですが。

(委員)

私は買った本が家に増えていくのが好きだったんです。

(委員)

やはり買いたい人はいますよね。

(委員)

はい。たくさん本棚に並べたいんです。

(副会長)

図書館を利用する人もいれば自分で買いたい人もいますよね。

(委員)

そうですね。そうでなければ本屋さんが潰れてしまいます。

(副会長)

それでも生活に本があるというのが大事なんだと思います。

(会長)

ありがとうございました。それでは次に最後の案件に進みたいと思います。

5. 「図書館事業評価に係るお知らせ便」について

(事務局から説明)

…資料「図書館事業評価に係るお知らせ便（令和7年10月）」に基づき説明

(会長)

ありがとうございました。では、本日予定しておりました全ての案件が終了いたしました。

6. 閉会

(事務局から閉会のあいさつ)

(会長)

それでは、以上をもちまして、令和7年度第2回河内長野市図書館協議会を閉会いたします。どうもありがとうございました。

以上